

(概要版)

ひたちなか市都市景観ガイドライン

～ 碧い海と豊かな緑に包まれた、人が育む美しいまちづくり ～



平成21年10月

ひたちなか市

1. ガイドラインの目的

本ガイドラインは、市民や事業者の方々の景観に対する意識の向上を図るきっかけとなり、私たちの街を改めて見つめなおし、本市のさらなる良好な景観の形成に市民、事業者及び行政が一体となって積極的に活動していくことを目的にするとともに景観施策の指針となるものであります。

2. ガイドラインの活用方法

美しい景観は、市民や事業者の方々の参加、協力によって創り、守り、そして育てていく共通の財産です。景観の魅力を発見するために、また各地区でのまちづくりの取組みのなかで本ガイドラインを活用してください。

3. 目標と3つの基本方針

目標

碧い海と豊かな緑に包まれた
人が育む美しいまちづくり

1. 自然の豊かさを享受できる調和のある街並み景観の形成

～季節ごとの賑わいと場所の特性を感じながら、やさしい歩行空間を楽しめる緑の多い魅力的な美しい景観づくりを目指します。～

2. 自然と歴史・文化の保全

～残された貴重な自然環境を守り、歴史的資源を都市の中に融合させ、潤いややすらぎを感じさせる景観づくりを目指します。～

3. 市民協働による景観の形成

～市民、事業者、行政は景観に対して共通認識を持って、その役割を分担し、市民協働による景観づくりを目指します。～

4. ゾーン別基本方針

「ひたちなか市土地利用指針（平成18年9月策定）」の土地利用構想を基本とし、土地利用の方向性から、本市域を大きく4つのゾーニング（「住宅地景観ゾーン」、「商業・業務地景観ゾーン」、「工業・業務地景観ゾーン」、「海岸・田園集落等自然利用景観ゾーン」）に分けて、それぞれのゾーニングについて景観形成の方針を示します。

住宅地景観ゾーン

- 季節感のある開放的で快適な住宅地の形成を図ります。
- 地域ごとに特色ある魅力的な景観の形成を図ります。
- 歩行者の視点を意識した街並み景観の形成を図ります。
- 歴史・文化を感じさせる景観の保全を図ります。

商業・業務地景観ゾーン

- 通りごとに魅力的で統一感のある景観の形成を図ります。
- 歩行者にやさしい開放的なゆとりと潤いのある空間の形成を図ります。

工業・業務地景観ゾーン

- 周辺と調和した良好な景観の形成を図ります。
- 緑豊かな景観の形成を図ります。

海岸・田園集落等自然利用景観ゾーン

- 潤いとやすらぎのある田園景観の保全を図るとともに、集落については自然と調和した良好な景観の形成を図ります。
- 恵まれた豊かな自然である海岸や河川、斜面緑地などの良好な景観の保全を図ります。
- 市内の景勝地などの今ある風景を大切にします。



5. 景観形成の誘導指針

住宅地景観ゾーン

- 窓辺や玄関周辺などに花木などを植栽し、季節感を高めましょう。
- 入口まわりはできるだけゆとりを持たせましょう。
- 自宅の敷地のみならず、道路やごみ集積場といった自宅周辺にも目を配り、ごみのないきれいなまちにしましょう。
- 建物の高さは、街並みとしてのつながりを考慮して調和に努めましょう。
- 建物の色彩については、周辺と調和する色を選びましょう。
- 建物の附属建築物（物置、車庫等）は、建物や周辺と調和する色を選びましょう。
- 垣や塀は、生垣を基本とし、塀をかける際は防犯性も考慮して高いものを避けて、素材や色彩等の統一性を持たせましょう。
- 夜間にはできるだけ各戸の屋外照明灯を点灯させ、安全性も考慮した明るい通りをつくりましょう。
- 空調室外機等の位置については、通りから直接見えないよう配慮しましょう。
- 道路空間との調和に配慮し、花や木で潤いのある演出に努めましょう。
- 既存の樹木は、できるだけ保全しましょう。
- 歴史のある古い建物については、長く保存していけるよう、こまめに手入れしましょう。
- 昔から伝わる文化的な伝統行事を大切にし、地区の人たちと協力して守りましょう。

商業・業務地景観ゾーン

- 通りごとに植栽や花壇等に統一感を持たせ、賑わいや季節感を演出しましょう。
- 外壁の色彩は、派手な色を使用する一壁あたりに占める割合に注意して、誘目性を高める効果的な使用を検討しましょう。
- 看板は、大きさ、色彩、設置位置などの統一を図り、乱雑な印象を回避しましょう。
- 定期的に催しを開催するなど、賑わいの創出を図る事業に取り組みましょう。
- 店舗のメインとなる通りの清掃活動はもちろんのこと、裏の通りについてもごみのないきれいな通りにしましょう。
- 建物の壁面位置は、歩行者への圧迫感を避けるため、十分なゆとりを持たせましょう。
- 広告物、のぼりは、乱立を回避し、集約化に努めましょう。
- 照明は、夜の街並みを魅力的に演出する配置や配光を検討し、過剰な光量とならないように努め、光源の色彩や動きは周辺の環境や安全性に配慮しましょう。
- イルミネーションは、周辺への影響、季節感に配慮しましょう。
- 庇にアクセントカラーを使用するとともにショーウィンドウを開放的にしつらえ、賑わい感を演出しましょう。

工業・業務地景観ゾーン

- 建物の高さは、通りからみた連続性に配慮しましょう。
- 建物の壁面位置は、圧迫感を避けるため、道路及び隣地境界線から後退して、十分なゆとりを持たせましょう。
- 外壁の基調となる色彩は、暗いものや派手なものは控えましょう。
- 企業のサインは、建物と一体的にデザインしましょう。
- 看板、広告物、のぼりは乱立を回避し、色彩は派手なものを避けて、周辺環境との調和を図りましょう。
- 駐車場や道路に面している箇所などは、安全性も考慮して効果的に屋外照明灯を設置して、夜間の周辺環境にも配慮しましょう。
- 用具は煩雑に放置せず、敷地のみならず周囲にも目を配りごみのないきれいなまちにしましょう。
- 塀のセットバック、前面の緑化や高木の連続植栽などで、道路空間にゆとりや潤いを与える工夫をしましょう。
- 駐車場は煩雑にならないように、主要幹線道路のような幅員の広い道路からの眺めに配慮したデザイン、配置に努め、周辺を緑で修景しましょう。

海岸・田園集落等自然利用景観ゾーン

- 建物の配置や高さは、周囲の風景に配慮しましょう。
- 建物の色彩は、周囲の自然環境になじむような色を使用しましょう。
- 周囲の自然環境、田園風景との調和を意識し、建物の周りには花や木を植えましょう。
- 周囲の自然環境と調和するように、塀は生垣を基本としましょう。
- 店舗は、沿道からの見え方に配慮し、建物の配置や看板を工夫しましょう。
- 工場は、周囲の自然環境と調和するように、工場の周りを植栽しましょう。
- 広告物やサインは、周囲の自然環境に配慮して、派手な色彩の使用や多色使用を最小限に抑えましょう。
- 自然景観を良好にするため、海岸や河川、森林などへの清掃活動を行い、ごみのないきれいな自然を守りましょう。
- 健康増進も兼ねてハイキングや散策を行い、私たちの住む街を改めて見つめなおして、今の風景を大切に守っていきましょう。

ゾーニング図



住宅地景観ゾーン



工業・業務地景観ゾーン



海岸・田園集落等自然利用景観ゾーン



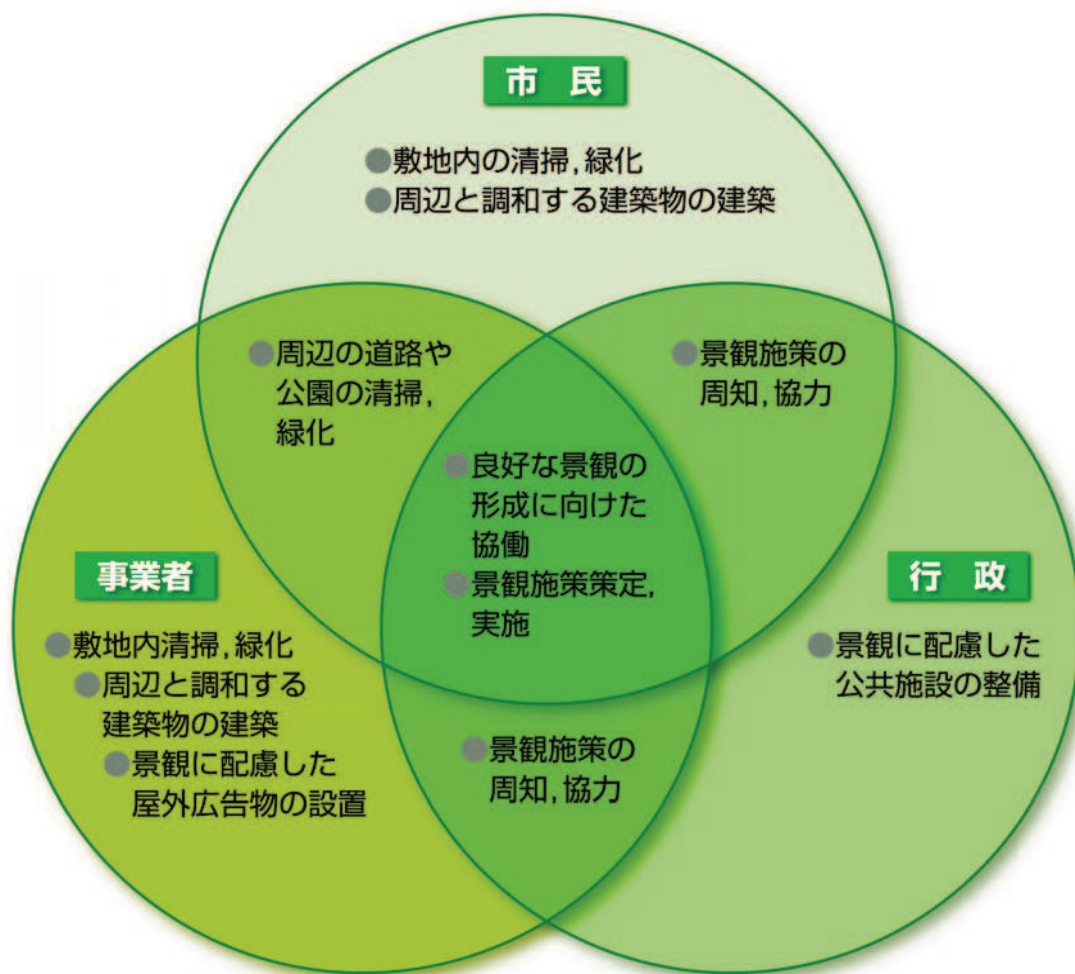
商業・業務地景観ゾーン



凡例	
	住宅地景観ゾーン
	商業・業務地景観ゾーン
	工業・業務地景観ゾーン
	海岸・田園集落等自然利用景観ゾーン
	道路
	鉄道
	主な河川

6. 市民・事業者と行政の役割

魅力ある美しい景観を形成するためには、市民、事業者、行政の3者のそれぞれの立場での役割と責務を果たしていくことが必要であるとともに、3者の連携が肝要です。



●景観ガイドラインの詳細に関しては市ホームページをご覧ください。

発行 ひたちなか市 都市整備部 都市計画課
〒312-8501 ひたちなか市東石川2丁目10番1号
TEL 029-273-0111 (内線1361, 1362) FAX 029-276-0479
E-mail toshikei@city.hitachinaka.lg.jp
市ホームページ <http://www.city.hitachinaka.ibaraki.jp/>